

岐阜県支部だより

- 1 巻頭言
- 2 支部研究会報告
- 3～6 全国大会報告
事務局より

第11号 平成25年10月30日 発行

巻頭言「日本学校教育相談学会総会・研究大会(岐阜大会)」を終えて 一人一人を認め 育て つなぐ 学校教育相談

岐阜県支部理事長 下野 正代

はじめに

「素晴らしい大会運営にただただ頭が下がります。スタッフの皆さまが一丸となり、心温まる対応をしてくださったのは、岐阜県支部の熱心な活動に魅せられた皆さんの力が結集されたからだと思います」「岐阜は歩道が確保されていて、人を大切にしている町でした!」「岐阜って、ゆったりとした人の温かさが伝わってくる町ですね!」

「最高気温 38 度ともっとも暑い日でしたが、岐阜の魅力満喫いたしました。岐阜支部の皆様、朝日大学の学生の皆様のきめ細やかな心遣いがありたく、充実した研修をさせていただきました」と、嶋崎会長様はじめ多くの方から、お礼とお褒めの言葉を頂戴しました。「精一杯のおもてなしをして、岐阜に来てよかったと思って帰っていただこう」という私たちの気持ちが伝わったようで、嬉しくて、一気に大会の疲れも吹き飛びました。

一人一人を認めあった岐阜大会

第 22 回神奈川大会の後、前支部理事長の小森先生から「第 25 回大会は岐阜が主管」と聞いたときは、驚きとともに、まだまだ先のことと思っておりましたが、あっという間の 3 年間でした。

準備の間、何よりも嬉しかったことは、岐阜県支部の皆さんが非常に前向きに大会をとらえてくださっていることでした。全員が教育関係者とはいえ、日頃、同じ職場に勤務しているわけではないので、50 人余りの会員が心をひとつにして大会を開催することは非常に困難なことだったと思います。教育相談に携わっている人たちのチームワークの良さに感心することばかりでした。お互いを認めあってこそできた大会でした。

一人一人が育った岐阜大会

40 年近い教員生活の中で、全国大会を実行することは滅多にない経験です。先生方が、いつか大

きな大会をされるときには、同僚に素晴らしいアドバイスができると思います。特に、今回ボランティアで参加

させていただいた朝日大学教職課程専攻の学生たちは、わずか 3 日間でしたが、先生方に大きく育てていただけました。「たくさんの先生方と話す機会があり、知りたかったことを聞くことができました」「先生方の対応の仕方を真似したいと思いました」と学生たちは感想を述べています。また、最終日に先生方の前で、学生たちが自分なりの感想を述べることができ、そのことを後からほめていただき、私も大変嬉しく思いました。いじめや不登校の経験のある学生もいましたが、授業で行う「エンカウンター」や「ピアサポート」の成果が出たのかと嬉しくなりました。今大会に取り組んだ全員が成長できた貴重な大会でした。

一人一人がつながった岐阜大会

立案、準備進行、組織作りと運用、交渉、メールを使つての「報連相」の徹底、頻繁に変わった分科会場への対応、ポスターの図版を入れた看板、間際まで変動したお弁当や懇親会の調整、心のもった接待、会員のネットワークのおかげで多かった研究発表、一際目を引いたポスター・チラシと大会冊子、新聞への掲載、胸章のアイロンがけ、直前の名札や受付名簿の作成、急遽の受付対応、手間のかかる会計処理、先輩会員の温かい励ましと、会員一人一人がつながることができました。

この大会を機に、ますます学校教育相談と岐阜県支部の活動が充実することを願って、会員皆様へのお礼の言葉とさせていただきます。本当にありがとうございました。お疲れ様でした。



☆岐阜県支部研修会報告☆

定期総会（第23回総会）・第1回研修会報告

開催日：平成25年6月15日（土）

会場：朝日大学（岐阜県瑞穂市）

1. 定期総会

今年度の岐阜県支部定期総会は、6月15日（土）に朝日大学で行われました。総会では、下野理事長のあいさつの後、支部役員を紹介、平成24年度年間事業報告、平成24年度会計報告及び、会計監査報告、平成25年度年間事業計画、平成25年度予算案などが審議されました。（総会資料につきましては、支部会員全員に送付いたしました。届いていない会員の方がおられましたら、事務局までご連絡下さい。）

また、8月に岐阜県で行われる全国大会に向けての進捗状況も説明がありました。

2. 記念講演（兼 東海ブロック研修会）

『学校教育へのソーシャルワーカーの
導入と活用について』
大阪府立大学 教授 山野 則子 先生

記念講演では、山野則子先生に学校現場へスクールソーシャルワーカー（以後SSWとする）の導入と活用について、ご講演をいただきました。山野先生は、大阪府のご出身で、福祉事務所の家庭相談員などをご経験されました。大学での仕事の他に、文部科学省中央教育審議会委員や日本社会福祉学会理事を務められるなど主に児童福祉の分野でご活躍されています。

1980年と2003年に行われた育児の実態調査を比較すると、例えば「近所にふだん世間話をしたり、赤ちゃんの話をしたりする人はいますか？」という質問では、話をしない人の数が増加していたり、「子育てで、いらいらすることは多いですか？」の質問では、「はい」と答えた人が増加したりしていることが明らかになりました。現在は保護者の孤独や不安が見えにくい状況に陥り、その状態で育てられた子どもが学校へ進学している状況であると考えられているようです。

また、物質的には恵まれているように見えていますが、貧困に苦しんでいて、外に出せない現状もあると言われています。

そのような環境が学校現場の問題の主なもので

あり、不登校や非行等につながっていると考えられています。

SSWは、児童生徒個人にのみ焦点を当てるのではなく、個人とその取り巻く環境に働きかけたり、関係機関等のネットワークを活用したりして、課題解決を図っていくものです。環境に働きかける点がスクールカウンセラーと大きく異なる点であると言えます。

SSWは、学校に福祉の視点を導入して考えます。例えば、不登校等の事例を取り上げた時、「なぜ不登校なのか」のアセスメントをソーシャルワークの関係性（孤立や経済的援助を必要としているのか）に求めることとなります。そのアセスメントを基に、プランニング（手立てを構築）し、実行後、モニタリング（見直し）していく流れをつくっていきます。

教師と家庭の間をつなぐ通訳のような存在であるとおっしゃっていました。学校内だけで解決できないような様々な問題について、一緒に考えていける存在として、これから先重宝されることと思います。

教育相談やスクールカウンセラーが学校現場に定着するまでに、かなりの時間がかかり、苦労があったことをよく耳にしますが、SSWの導入にも、かなりの苦労があったことをお聞きしました。SSWの役割や可能性を正しく理解し、連携を密にとっていける体制を整えていくことが、今後の学校現場に大きな成果をもたらすことになると思います。ありがとうございました。



（文責：小笠原淳）

☆第25回総会・研究大会

岐阜（朝日大学）で開催☆

8月9日（金）から3日間にわたり、瑞穂市にある朝日大学において第25回総会・研究大会（岐阜大会）が開催されました。大会テーマ「一人一人を認め育てつなぐ学校教育相談」のもと、初日のワークショップは151名、研究大会には322名の参加者があり、大盛況のうちに幕を閉じました。

●主な日程

- 8月9日（金）支部活動推進協議会、支部代表者会、支部代表者懇親会
第14回ワークショップ
- 8月10日（土）総会、記念講演、研究・実践事例発表、ポスター発表、自主シンポジウム、特別講演、会員懇親会
- 8月11日（日）研究・実践事例発表、ポスター発表、自主シンポジウム、ラウンドテーブル、小泉英二記念賞受賞者講演

1 総会（10日 9:30～11:00）

岐阜県と瑞穂市の教育長、朝日大学学長等を来賓としてお迎えし、「いじめ・体罰撲滅を目指して、さらに学校教育相談の充実に努めていこう」という嶋崎政男会長のご挨拶に始まり、議事進行がスムーズに行われました。その中で、岐阜県支部前理事長の小森芳順先生が名誉会員に、副理事長の古田信宏先生が、数多くの実践や研究を評価され「第7回小泉英二記念賞」を受賞しました。来年の第26回大会での受賞記念講演が楽しみです。



2 記念講演（10日 11:00～12:30）

演題 「人と人とのつながりや思いやりを育てる学校教育相談」
講師 富永良喜先生（兵庫教育大学教授）

被災3県に向けた「こころのサポート映像集」にもとづきながら、ストレスに対処する力をつけるための具体的な授業実践をご紹介していただきました。

大津の事件を受けて第2次の心の教育改革の時を迎えており、「こころの健康教育」の必要性が増している。しかし、現在の「道徳」の授業で扱うにはなじまず、保健体育の時間では非常に限られた時間である。兵庫県ではこれまでに「トライアルウィーク」や「命の大切さプログラム」などを通して、「ストレスコーピング」「アサーション」「気持ちの仕組み」「親子ストレス」など、様々な手法を実践してきた。心の健康教育をいかに推進していくかについて、教育システムの問題としても考えていく必要がある。



3 特別講演（10日 16:10～17:00）

演題 「人との関係を作るソーシャルスキル
～接近化スキルと距離化スキル～」
講師 宮本正一先生（岐阜大学教授）

文化によって人とのかかわり方の違いを取り上げながら、対人関係を結ぶ場合のスキルには、距離化スキルと接近スキルがあり、その両方をバランスよく用いることが豊かな人間関係につながるという研究をご報告いただきました。

ソーシャルスキルについて取り上げる場合、「聴く」「アサーション」などポジティブなものを取り上げることが多いが、「上手に断る」というようなネガティブな、人との距離を置く距離化スキルも必要な時がある。質問紙法で、クラスの中の対人関係を調査した結果、たとえば、「指導上問題があまりない」と教師が考える生徒に対してよりも、「ある」と考える生徒に対して「距離化スキル」を用いることが多いという結果が得られた。時と、相手と、場合によって、二つのスキルの使い分けが必要であるといえる。
(文責：大坪一才恵)

4 研究・実践事例発表

8月10日(土)、11日(日)の2日間にわたり口頭発表として分科会が行われました。

分科会では、教育相談や生徒指導の体制作りや資質向上に関わるもの、心理アセスメントや心理療法といった「児童生徒理解」に関するもの、チーム支援、保護者支援など「支援」に関するものなど15グループに分類され研修を行いました。

各分科会に参加された会員の皆様の報告を一部紹介します。

口頭事例発表 分科会12
「チーム支援1」
座長 小森 芳順 先生

◆ コンサルテーションによるチーム援助の実践に関する考察

A 大学では、少人数教育を特色とし、発達障害を有する学生を受け入れている。チューターを中心としたチームでのケース会議は、2012年では、対象数は68件、学生が安心して修学できるよう援助のお願いを記した「配慮の手紙」の配布数は21件。この数は年々増加しているが、学生の成就感につながる積み重ねの継続が、今後も期待される。

◆ 所属意識を高め温かい人間関係を育てるチーム支援

規範意識の低い生徒のいる中学校で、学年職員によるチーム支援を行った。全ての生徒を対象にSGE、SSTを実施、支援が必要な生徒には学習支援・個別支援を実施、リーダーに対しては、支え合えるリーダー会を実施した。ルールとリレーションを大切に、同一歩調で指導を行った。何を誰が行ったかを整理し、新たな取り組みに生かしたい。

口頭事例発表 分科会15
「生徒指導」
座長 藤井 和郎先生

◆ 早期発見・早期対応を生み出す情報連携による生徒指導体制の在り方

組織による支援体制を充実させる手立ての一つとして「色別分類シート」を作成し、全ての職員による継続的な指導に取り組んだ。

また、児童の内面を捉えるため「心とからだの

健康調査」・「学校適応感尺度アセス」を併用し適応しにくい児童の困り感を掴んだ。

児童の情報は対応レベル別(学校対応・学年対応・担任対応・経過観察)により色分けされ、どの領域(生徒指導・教育相談・特別支援・健康)でも、一つの明確なサイクルの下で支援していく

ことで、児童の内面の理解を深め問題行動の予見・防止につなげた。

教員の生徒指導や教育相談に関する力

量形成に必要な研修モデルについて、十分な時間をかけた人材育成型研修が重要であること、六つの領域(セルフマネジメント・1対1・1対集団・校内・地域・構想)にわたって、基礎知識やスキル活用力を身に付け、方法論に偏らない技能・態度を育成するための研修の積み上げが必須であり、研修の時間を生み出す工夫をすることが今後の課題である。

◆ <分科会の中で・・・>

子どもの居場所となる集団、学級作りや自立に向けたチーム支援など、様々な角度から多くの実践・事例発表がなされました。

いただいた資料や会員の皆様の報告書から、今回の分科会では「Q-U」や「アセス」の実施・活用、加えてSGE、SSTを併用しながら児童生徒理解を促したり、集団作りに取り組んだりしておられる先生方の実践発表が多数ありました。

「自身が抱えている事例の対応のヒントを得た



い」「学級集団作りをどうするか」などそれぞれが自分の課題や思いを持って参加され、どの分科会においても活発な意見交流、質疑応答がなされました。

(文責： 佐々木 文枝)

5 ワークショップ

8月9日（金）には6つのコースに分かれ、第14回夏季ワークショップが行われました。その一部を紹介します。

ワークショップ B

「不登校問題から見える
子どもの世界観と実践的課題」
春日井 敏之先生（立命館大学教授）

不登校について、発達の視点と社会的な視点から捉えてお話をしていただきました。また、ご自身が関わられた実際のケースを紹介され、具体的かつ現実的な問題を通して、実践的な課題や方策を学ぶことができました。

前半は、不登校への取り組みの視点や支援ネットワークのありかたなどについてお話いただき、後半は、模擬ケース会議やロールプレイなど、ワークを交えて展開されました。参加者間の活発な交流もあり、時間があっという間に過ぎていきました。

ワークショップの中で先生が語られた「がんばれ」という言葉は、「まだ足りない」というメッセージとも捉えられかねないので注意しましょう。」

「本当の“がんばる”は、“気がついてみたらがんばっていた”という状態ではないでしょうか。」という言葉が、特に印象的でした。「認めて欲しい」と願いながらも苦戦している子に対しては、ほめたりねぎらったりする声かけを行うとともに、実際に肯定したり居場所を作ったりする場面作りが必要であることも意識できました。

私たちは、どのようにしたら子どもたちを引きつけ、導くことができるようになるようになるのかと深く考えさせられたワークショップでした。春日井先生は、終始穏やかな口調で語られましたが、それゆえにかえって厳しく自分のこれまでの姿勢を問われたようで、改めて襟を正す思いがしました。

（文責： 若原裕樹）

ワークショップ F

「学校教育相談における保護者連携」
～いじめと自殺を視野に入れて～
橋本 治先生（岐阜大学大学院准教授）

ワークショップ Fには、小中学校教諭、管理職、養護教諭、大学関係者、学生等の立場の方々が参加しました。そして、保護者支援について、発達障がいのある子、いじめ・不登校、自殺（未遂）の事例をそれぞれの立場で見立て、対応・支援の交流を行いました。他府県からの参加も多く、所属している組織の在り方やそれぞれの地域の体制を知る良い機会となりました。講師の橋本先生からは、たくさんの貴重なご経験の中から、事例を見立てる視点や子ども、保護者を支援する時の留意点について丁寧なコメントをいただきました。

特に自殺未遂の事例では、本人に対して、学校で同じような事が起きないように予防をしていくこと、保護者支援として、家庭でどんなことができるかを相談し、具体的な方法を提案していくことを教えていただきました。保護者が子どもに対して関心が薄い場合、言葉かけや子どもの情報を発信していかなければどんどん関心が薄れていく傾向があり、親は親の仕事があることを理解してもらえるよう継続的に働きかけが必要であると学びました。

（文責： 佐々木文枝）



会場の様子（ワークショップ B）

6 自主シンポジウムの様子

10日(土)、11日(日)の2日間、計4つの企画で行われました。東日本大震災後の心のケアに関わる内容や、エビデンスという最近のトピックスに関わるものなど内容がどれも充実し、参加者も熱心に耳を傾けていました。



7 ポスター発表の様子

10日(土)、11日(日)の2日間、計11発表がありました。



(文責：小笠原淳)

事務局より

岐阜大会 お礼

朝日大学で行われた本学会の第25回総会・研究大会も無事に終わることができました。3日間を通して300名を超える方に参加していただきましたが、岐阜県支部の皆様のご協力を得ることができ、最終的には50名程の実行委員で大会をサポートすることができました。

当日を迎えるまでから当日の運営に至るまで、時間をかけながら丁寧に取り組んでいくことにより、総会、記念講演、特別講演、事例発表、シン

ポジウム、ポスター発表など盛りだくさんの内容でしたが、どの会場もスムーズに進めることができました。

参加していただいた全国の皆様からの感想から、岐阜県支部の対応の細やかさや暖かさを高く評価していただきました。「岐阜に来てよかった」という声をたくさん聞くことができたことは、何よりの喜びでした。

実行委員をしていただいた皆様、参加していただいた皆様、本当にありがとうございました。

また、今回は参加いただけなかったのですが、「本当は手伝いたかった」と多くの方が声をかけてくださいました。気にかけていただき、ありがとうございました。

10月19日の理事会で、今回の大会の反省をしました。この反省を生かしつつ、さらに実行委員や会員の皆様の声をいただきながら、今後の方向を検討していこうと思っています。

「一人一人を認め育てつなぐ学校教育相談」が大会のテーマでありましたが、言葉通り、これからのつながりがより広がるように、努力していきたいと思います。

どうぞ、今後ともよろしく願いいたします。

2月に実行委員 反省会

記述の通り、全国大会の反省をしつつあります。それをまとめながら、実行委員をしていただいた皆様からのご意見をいただく機会を2月に開催する予定です。詳しい案内は、また後日送付させていただきますが、実行委員をしていただいた皆様、参加していただきますようお願いいたします。

事例発表してみませんか

今年度の活動として、2回(12月、2月)の研修会があります。どちらも「事例研究会」を計画しています。会員の皆様の中で、「ちょっと相談してみたいな」「詳しく教えてほしいな」という事例がありましたら、気軽に事務局まで問い合わせをしてください。

(文責：事務局長 木村 正男)

日本学校教育相談学会岐阜県支部会報第11号

2013年(平成25年)10月30日発行

発行：日本学校教育相談学会岐阜県支部

編集：日本学校教育相談学会岐阜県支部広報委員会

ホームページ：<http://www1.ocn.ne.jp/~sodangif/>

E-mail：sodan-gifu@plum.ocn.ne.jp